

# 前回の「専門家会議」における 委員からの御意見への対応状況（案）

令和6年（2024年）2月

熊本市

# ◇対策と対応の課題・総括（方向性等） ●医療提供体制

※熊本市保健所等における新型コロナウイルス感染症の対策と対応に関する検証について（全体版）より抜粋

## <広域調整>

### ●各波における広域調整実績

波	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	波間期間	第6波	第7波	波間期間	第8波	第8波以降	合計
感染者数	40	219	1,607	1,819	4,542	22	47,729	97,851	7,799	83,589	6,181	251,398
入院患者数（人）	40	218	909	586	934	16	2,560	2,560	232	3,908	757	12,720
入院件数（件）	40	304	1,030	686	1,004	16	2,767	2,767	247	4,165	784	13,810
広域調整による入院件数（件）	1	4	71	106	130	0	85	49	5	31	7	489
（広域調整の割合）	3%	1%	7%	15%	13%	0%	3%	2%	2%	1%	1%	4%

### ●圏域

御船	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
宇城	0	0	12	19	0	0	1	7	0	3	0	42
有明	0	0	16	5	36	0	0	2	0	3	0	62
山鹿	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
菊池	1	0	6	10	3	0	12	3	0	3	0	38
阿蘇	0	0	2	3	14	0	4	3	0	1	0	27
八代	0	4	14	25	17	0	1	0	0	2	0	63
水俣	0	0	2	10	16	0	2	0	0	0	0	30
人吉	0	0	6	6	19	0	0	0	0	1	0	32
天草	0	0	8	17	16	0	3	0	0	0	0	44
その他	0	0	4	11	9	0	62	30	5	18	7	146

※重症輪番調整も含む

### ●各波における最大確保病床数

波	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波	第7波	第8波
県	378	400	473	722	814	841	1,060	1,131
市	77	100	136	218	244	308	448	484
（市の割合）	20%	25%	29%	30%	30%	37%	42%	43%

### ●広域調整を行った主な理由

第1波～第5波	病床に空きがない（要配慮者に限らず）
第6波以降	要配慮者用の受け入れ病床が無かった／院内クラスターの発生等で受け入れ可能な状態では無かった／市外居住者を含むくんだり搬送のため 等

# ◇対策と対応の課題・総括（方向性等） ●医療提供体制

※熊本市保健所等における新型コロナウイルス感染症の対策と対応に関する検証について（全体版）より抜粋

## <広域調整>

### ◆状況

- ①感染者数が増えた第3波から広域調整事例の割合が増え、第4波・第5波では、熊本市事例入院件数の13～14%が域外への入院となっている。また第6波以降は広域調整の割合は減少し、第8波まで1～3%となっている。
- ②広域調整の理由をみると、第5波までは「病床に空きがない」が9割を占めていたが、第6波以降は「要配慮者用の受け入れ病床が無い」及び「市外居住者を含むくんだり搬送」が多くを占めていた。
- ③第5波までの熊本市内の確保病床の状況をみると、第5波までは県全体の3割以下と少なかった。その後、市内の確保病床が増えたこともあり、広域調整事例の割合は少なくなった。
- ④第6波以降は要配慮者への対応において「妊産婦のトリアージの変更」や、「透析患者等をはじめとする陽性患者を自院対応する医療機関の拡大（第7波以降）」により、広域調整を行う事例が少なくなった。

### ◆課題

- ・当初、広域調整の対象患者に関する情報シート等の統一様式が無かったことなどから、情報共有不足が生じ、搬送先決定までに時間を要した。
- ・県調整本部と保健所・医療機関間の重症度や広域調整適応判断に違いがあり、調整が難しい場面もあった。

### ◆新たな感染症に備えた総括（方向性等）

※黄塗部分…「熊本市感染症予防計画」に反映予定

◎熊本県・熊本市感染症予防計画に基づき、県と協力して早い段階から病床を確保していく。

◎広域調整のあり方やルール、様式等については、熊本県感染症対策連携協議会にて協議を行う。